

増収増益を続ける「内面美容」のリーディングカンパニー

インナービューティを理念に 食の提案力の高さで アジアNo.1企業になる

エステティックサロンや美容室などで顧客に提供される商品は、一般市場に出回るものとは異なり、成分、内容、効果とも厳しいプロ目線に耐えられるものでなければならない。いまや大手エステ企業や医療機関にも導入され、急成長に注目が集まるエステプロ・ラボのプロフェッショナル・ユース商品。同社の成長の原動力を支える理念「インナービューティ」について、代表取締役会長の佐々木氏に聞いた。

月1回のエステより 日頃の「食」が美をつくる

——事業内容を教えてください。

エステティックサロン、スパ、美容室などでお客さまに提供する商品の企画・開発・卸販売です。当社のハーブティ、ファスティングのための酵素ドリンクや補助食品、基礎化粧品などは、サロン専売のプロフェッショナル・ユース（プロユース）商品として、全国1万2700の店舗でお取り扱いいただいております。一般販売はしていません。

——プロユースの商品といえば、サロンの施術で使うマッサージクリームや美容液が思い浮かびます。なぜエステプロ・ラボはお茶やドリンクなどの「食品」が中心なのですか。
お客さまに「身体の内側から美しくなってもらおう」ためです。「私たちの身体は食べたも

のびるお肌がついて——We are what we eat.」という米国のことわざがあります。まったくその通りで、「身体の内側から」美を創り出していく」という考えを当社では「インナービューティ」と名づけ、すべての商品やサービスのコンセプトに据えています。

——「食」が根幹なのですね。

そうですね。それには理由があります。2002年当時、当社はエステティックサロンを運営していました。お客さまは「肌をキレイにしたい」「痩せたい」という目的をもってエステを訪れます。しかし、その要望に対して、継続的に結果を出し続けることは難しいと痛感していました。たいていのお客さまにとって、エステは毎日訪れる場所ではありません。そのため、お客さまの要望を叶えるには、食事などにも注意してもらわなければなりません。簡単にいってしまえばどんなにエステにお



エステプロ・ラボ
代表取締役会長 兼 CEO

佐々木 広行

ささき ひろゆき

1968年、神奈川県生まれ。早稲田大学教育学部を卒業後、セコム株式会社へ入社。1998年に退社し、株式会社ウイズダム教育通信社を設立し、代表取締役に就任。2002年、株式会社エステプロ・ラボを設立。代表に就任（現、代表取締役会長 兼 CEO）。2015年、株式会社プロラボ・コンサルティング設立。代表取締役に就任。2016年、株式会社プロラボ・コンセプトを設立。代表取締役に就任。一般社団法人日本酵素・水素医療美容学会副理事長。一般財団法人未来医学財団理事。

経営者
データファイル

身長:180cm 体重:76kg 平均睡眠時間:6時間
平均起床時間:午前7時 趣味:読書

※ファスティング:一定期間、食事を摂らないことで消化器官を休ませ、身体をいったんリセットすること